

〒805-0071 北九州市八幡東区東田二丁目4番1号
Tel 681-1011 Fax 661-7503
HP <https://www.kmnh.jp/>
発行:いのちのたび博物館 ミュージアムティーチャー

はくぶつかん がくしゅう 博物館での学習

いのちのたび博物館では以下の内容で学習・体験ができます。
是非ご来館ください。

1. 学校ごとの申し込みが必要なもの

【小学校3年】社会科「かわる道具とくらし」

博物館の資料や展示を用いて、調べたり聞いたりする。

授業内容の詳細は、別にメールなどでお知らせしますのでご覧ください。

【小学校4年】総合「SDGs環境アクティブ・ラーニング」

北九州全体の動植物の生態系と環境についての学習、ペットボトル顕微鏡づくり。

教育委員会より別途通知があります。

【小学校6年】理科「土地のつくりと変化」

博物館の実験器具や資料を用いて、実感を伴った学習を展開。

授業内容の詳細は、別にメールなどでお知らせしますのでご覧ください。

2. 個人での申し込みが必要なもの(多い場合は抽選です。)

【子ども教室】前期6回、後期6回 各12名です。

小学4年生～中学3年生 が申し込みできます。

当館の特色を活かした体験活動などを行い、自然や歴史について学習します。

体験内容は変更になる場合があります。

詳細は、当館のホームページ、市政だよりなどを確認して申し込んでください。

【普及講座】自然、歴史、文化など様々なテーマで講座を実施します。

詳細は、当館のホームページなどをご覧ください。



道具とくらし



ペットボトル顕微鏡



土地のつくりと変化



昨年度体験例：小倉織



昨年度体験例：虫の観察

きかくてん び 企画展 「まがたまの美」

「まがたま(勾玉)」とは、古代に作られた装飾品のことです。

今回は、北九州市内で出土したまがたまをできる限り集めて展示します。

まがたまの美しさを感じて、まがたまが語る歴史の謎に思いをはせては

いかがでしょうか。

【会期】令和4年4月9日(土)～6月12日(日)

【場所】当館 3階ポケットミュージアム No.11

【観覧料】常設展入場料で観覧できます。



ヒスイ製まがたま

メノウ製まがたま、
水晶製まがたま



おかし おう つか
昔の王さまが使っていた
のかな。見に来てねー!



ミュージアムのタネ

ねむれる森のタネ

植物のタネは、風や動物などによって、いろいろな場所に運ばれます。しかし、運ばれた場所が、その植物の成長に適しているとは限りません。例えば、うっそうとした暗い森では、多くの植物は発芽しても生きてゆけません。

ところが、そのような暗い場所に運ばれた場合、発芽せずに眠ったまま土の中で生き続けることのできるタネをつける植物がいるのです。私たちの身近な植物では、アカメガシワやカラスザンショウ(写真1)などが、そのような性質を持ったタネをつけます。これらの植物は、伐採跡地のような明るい場所を好む植物で、パイオニア植物とよばれています。

さて、森の木が、台風でたおれたり、人によって切られたりすると、真っ暗だった森に太陽の光が降り注ぐようになります(写真2)。そうになると、地面の温度は高くなりますし、地面に届く光の質も変化します(＜参考＞をご覧ください)。暗い森の土の中で眠っていたタネは、このような環境の変化を感じ取り、いっせいに発芽します(写真3)。



写真1 発芽したばかりのアカメガシワ(左)とカラスザンショウ(右)



写真2 木が切られ明るくなった森

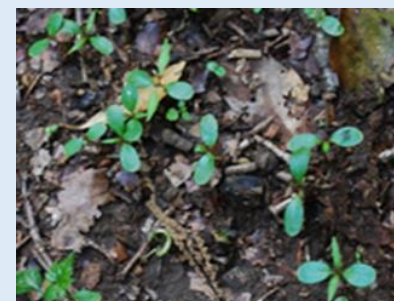


写真3 伐採後いっせいに発芽した木のこどもたち(伐採後3ヶ月目)



写真4 あっという間に大きくなった木々(伐採後2年目)

そして、たくさんの光をあび、ぐんぐん成長してゆきます(写真4)。しかし、木が大きく育ち、再び森が暗くなると、アカメガシワなどのパイオニア植物は生きてゆけず、森からいなくなってしまう。強い台風は、時として大きな木をなぎたおすことがありますが、パイオニア植物を森に呼び戻すことに役かっているのです。

余談ですが、切った木を燃料などとして使っていた1960年代までの森は、パイオニア植物など多くの種類の植物がくらす明るい場所でした。その後、ガスや電気が普及し、木が切られなくなった森は、うっそうとした姿に移り変わりつつあります。

＜参考＞ 太陽の光が森を通過する際、青色域と赤色域の光が葉によって吸収されます。これら波長の光は、植物が光合成に用いることのできる光です。このため、うっそうとした森の地面にとどく光の多くは、光合成に適さない波長になっています。

自然史課学芸員 真鍋 徹